

---

## 住民の一時立ち入り支援（下）

（田中カフミほか、広島大学 東日本大震災・福島原発災害と広島大学、2013、p. 43-47）  
2013年11月8日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

はじめに

福島第一原発事故を受け、住民の一時立ち入り支援を行った5例を取り上げる。住民の一時立ち入り支援の内容、必要なこと、重要なことは何かを5例の報告から考える。

事例報告の要約

### ① 荷物を抱え戻る住民におかえりなさい…西中カフミ

東日本大震災後の平成23年7月22日～26日、東京電力福島第一原発の事故を受け、避難指示の出ている警戒区域20km圏内の住民に対し、滞在時間2時間を制限とした一時帰宅の支援に参加した。支援内容は、一時帰宅する住民の出発前の健康管理と帰還後のスクリーニングおよび健康管理というものであった。安全と迅速さを求められる支援活動を支えたものは、「連携」であり、被災地へ出発する前のICU、高度救命救急センター看護師たちからのレクチャーをはじめ、前任者からの引き継ぎ、中継会場で他のスタッフとの交流、何よりも出発当日顔を合わせた医療チームメンバーの支え、すべてが活動につながった。今回の経験を生かした災害研修や訓練は必要であり、災害を想定した具体的な対策と連携の強化が重要とされた。

### ② 住民の心に寄り添う支援…佐々智宏

平成23年6月6日～11日、福島第一原発から半径20km圏内に設定された原子力事故警戒区域における一時帰宅中継地点の住民に医療的サポートを実施した。支援内容は、中継地点出発前の健康調査で、医師の診察を必要とする住民の選出であった。今回の経験から、放射線災害医療の迅速な初動体制の構築には、他施設関係者とのコミュニケーションを通して良好な信頼関係を築き、事業遂行に向けた協働が必要不可欠であるとされた。

### ③ 笑顔に救われた思い…越智康弘

平成23年6月10日～13日、広島大学緊急被ばく医療派遣チームとして活動を行った。活動内容は、福島原発周囲の警戒区域内への一時立ち入りに伴う住民や持ち出し物品への放射性物質の汚染の有無をスクリーニングし、立ち入り前、中、後の病傷者発生時に迅速に対応するという内容であった。今回の活動で、自分たちの担う役割、目的を把握しておくことの大切さ、混乱する現場において、自分たちが何をすべきか明確にすることの重要性が分かった。そのために、平時から、緊急時に自分たちの役割は何か、何が足りないかなどを想定して訓練しておくことが必要であるとされた。

### ④ 被災者の立場での支援を心掛ける…西岡照夫

平成23年6月～7月にかけて医療班スタッフとして活動を行った。内容は、立ち入り制限区域に入る住民、スタッフの健康管理(主に問診票の配布と回収)および、立ち入り制限区域から帰ってくる住民、スタッフの受け入れ業務であった。全体の作業で当日にボトルネックになった部分を中心に段取りを見直し、翌日そこを修正し日々効率化を図って対応す

ることが重要とされた。これは、日ごろの業務活動にも応用できるスキルでもある。

⑤ 声掛けのありがたみを実感…都田賢吾

平成23年6月4日～6日、緊急被ばく医療派遣チームとして活動を行った。活動内容は、避難警戒区域(福島第一原発から20km圏内)へ一時立ち入りするための中継会場で、中継会場の総括、総括補佐、緊急被ばく医療派遣チーム(医師、看護師、放射線技師など)支援、連絡調整などであった。また、厚労省、警察、消防、自衛隊、電事連など、さまざまな立場の人たちと、情報共有するための連絡調整、立ち入りされる方の問診表の配布、回収、立ち入り人数の集計作業内容の説明、立ち入り後のスクリーニング場所への誘導も行った。今回の経験で、意識や情報の共有の重要性を感じ、また声をかけてもらうこと、気にかけてもらえることのありがたみを感じた。

考察

5例より、一時立ち入り支援では、一時帰宅する住民の健康管理を帰宅前、中、後において行うこと、放射性物質の汚染の有無のスクリーニング、更には、様々な職種、役の方々との情報共有するための連絡調整、作業内容の説明等が、主な活動内容である。

一時立ち入り支援の活動において重要なのは、さまざまな支援する方々と、しっかりとコミュニケーションをとり、情報を共有し、協力して良好な信頼関係のもとで活動を行うことである。そして、平時より、緊急時に自分たちの役割は何か、何が足りないかなどを想定して訓練しておくことが必要であるとされる。